

みんなで創る、みんなで楽しむ、みんなで祝う

飛騨市 20 周年事業

提 言 書



市民でつくる飛騨市 20 周年記念事業検討委員会

令和 5 年 7 月 26 日

提 言 書

はじめに

飛騨市は平成 16 年 2 月 1 日に 2 町 2 村（古川町、神岡町、河合村、宮川村）が合併し、新たな市「飛騨市」として誕生した。

合併当時は、旧町村の対立なども見られる状況もあったように記憶しているが、平成 27 年にはスーパーカミオカンデでの研究において梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞し、翌 28 年にはユネスコ無形文化遺産に「古川祭・起し太鼓」が登録され、さらには同年、アニメ映画「君の名は。」で聖地巡礼現象が巻き起こり一躍飛騨市の認知度も向上し、多くの市民にとってのシビックプライドの醸成へとつながった。

今では、市民一人ひとりが、それぞれの地域を認識し認め合い、様々な自発的な取り組みが生まれ、さらには 1 万人を超える関係人口も生まれるなど、持続可能な取り組みが多くの地域から注目を浴びている。

そして、合併 20 周年を迎える令和 6 年 2 月 1 日は、人でいう 20 歳（はたち）という一つの節目であり、コロナ禍を乗り越え、再び人と人とのつながりを見直す良い機会であると考え、高齢化、人口減少先進地でありながらも、「飛騨市に住めば何か楽しいことがある」、「何か楽しいことができる」という気の醸成により、市の基本指針にもある「元気で、あんな、誇りのもてる」飛騨市を目指して進んでいけるよう、市民みんなで節目を祝い、まちを考え、楽しむきっかけになるよう、そして、記憶に残り、未来につながる事業となるよう、記念事業の運営方針を検討し提言として取りまとめたものである。

テーマ

本提言書を作成するにあたり、以下を 20 周年のテーマとして検討した。

みんなで創る。みんなで楽しむ。みんなで祝う。

ここでいう“みんな”とは、飛騨市民一人ひとりだけではなく、飛騨市を離れてしまった人、飛騨市に思いをよせてくれている人、興味をもっている人など、多くの関係人口も含んでいる。

以上の点を踏まえ、まずは 20 周年事業を検討するための市民会議を開催することとし、市外の方も気軽に参加できるようリアルとオンラインでのハイブリット開催としたところ、市内外から 75 名の参加があった。



■市民全体会議

飛騨市の関係人口案内所「ヒダスケ」を活用し、リアルとオンラインでのハイブリット開催により、市民だけでなく、市外からも広く募集し、飛騨市の20周年についてワールドカフェ方式にて意見を出し合った。

両日ともに、“20周年事業の趣旨及び市の思い”と“他の自治体での事例”の説明を行い、主に①令和6年2月1日を迎える企画と②20周年記念事業を検討するため、トークテーマを設け2会場で実施した。

・古川会場

令和5年4月7日(金) 飛騨市役所西庁舎大会議室
参加人数 43名(リアル参加 30名、オンライン参加 13名)

・神岡会場

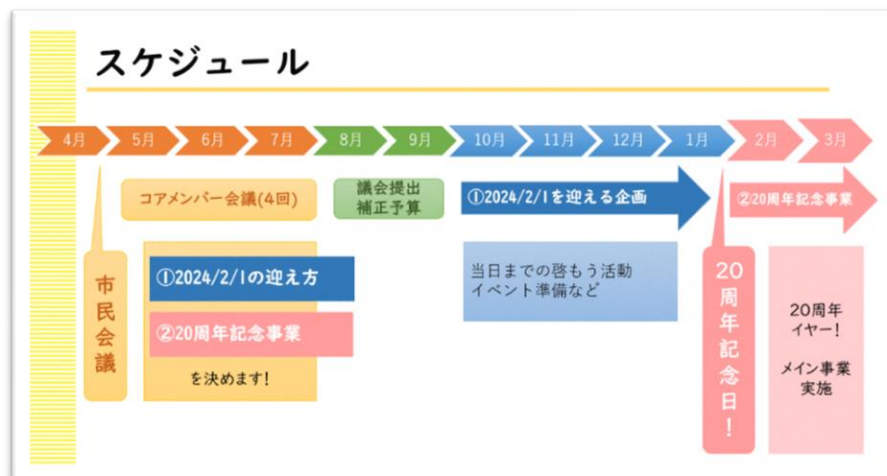
令和5年4月12日(水) 神岡町公民館3階会議室
参加人数 32名(リアル参加 16名、オンライン参加 16名)



トークテーマ

先に記載した20周年事業のテーマを念頭に置き、以下3つをトークのテーマにしグループワークを実施。

- ① **材料を集める** 「あなたの知っている飛騨市」ってどんなところ？
- ② **ターゲットを考える** 飛騨市の20周年、誰に、何を伝えたいと思う？
- ③ **どんな料理を作るか考える** みんなでやってみたいこと、見たい景色を語ろう！(具体案を語る)



※会議で出された多くの市民の意見は最終頁資料で掲載

■コアメンバーミーティング（検討委員会）

市民会議で多く出された意見をもとに実施事業や手法を検討するため、検討委員会の参加者を募り全3回のコアメンバーミーティングを開催。市民会議で出された多くの意見をもとに下記のプロセスで検討し提言書をまとめた。

4/25(火) 第1回コアメンバーミーティング（古川）

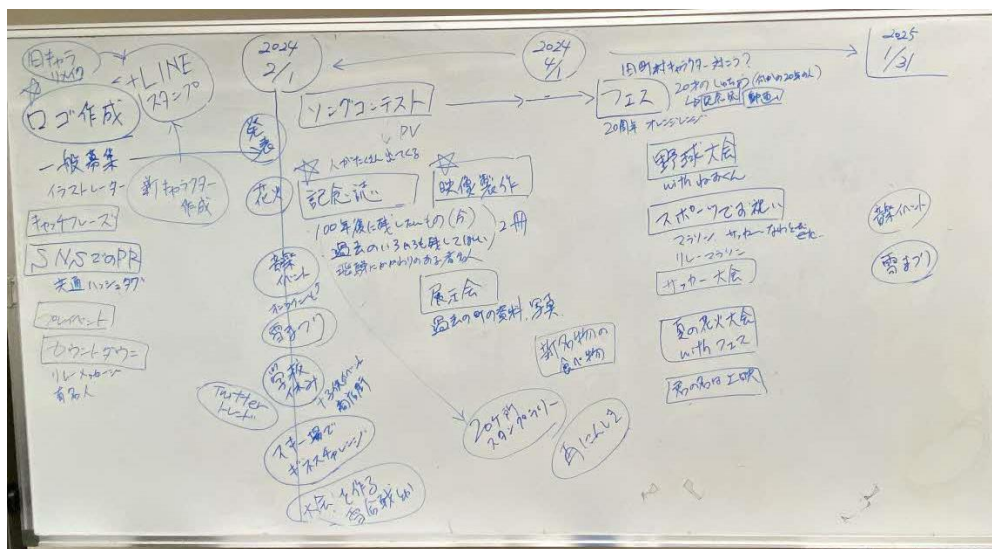
議題：全体会議を振り返り、どのように進めていくか

- ・全体会議で出された約 160 案の意見を振り返り、カテゴリに分けたり、各部署に担ってもらうことか、市民全体向けの事業として検討できる内容かなどを検討。
- ・宿題としてアイデアの中から各委員が全体事業として掘り下げたいものをピックアップし、具体案を検討してもらった。

5/19(金) 第2回コアメンバーミーティング（古川）

議題：具体案を検討

- ・宿題になっていた具体案を共有し、以下写真のようにタイムラインに落とし込んだ。
- ・出てきたアイデアをさらに検討し、具体案に落とし込んでいった。



6/14(水) 第3回コアメンバーミーティング（古川）

議題：提言書（案）の内容確認

- ・第2回で取りまとめた結果を反映した提言書（案）をメンバーで確認し、意見の漏れがないかまた、事業内容について不足する部分について確認作業を実施。

7/下旬 本提言書を市へ提出

■ 会議まとめ

「みんなで創る。みんなで楽しむ。みんなで祝う。」というテーマを全員で共有し、市民参加型、記憶に残る 20 周年という思いで足並みをそろえ会議を進めた。

〈令和 6 年 2 月 1 日を迎える企画〉

当日を迎えるまでに市民の機運を高める必要があり、**事前の PR が重要**であるとの意見が多く出された。また、それぞれの事業において、市民が参加する関わりしろを重点的に検討した。議論の結果、啓もう事業として以下事業を提言する。

「純飛驒市民限定」20 周年記念ロゴコンテストの実施

記念ロゴの作成に関しては啓蒙活動に必要であるとの意見が多く上がり、広く一般公募する案や、プロのイラストレーター登用による作成などの意見が出され、それぞれのメリットデメリットを検討した。

その中で、特に市民参加が重要であることや、これからの飛驒市を担う市内の小学生・中高生・高校生に参加してもらいたいという意見が多く上がった。子どもたちに参加してもらうことで、将来デザインを志す子が生まれるきっかけになったり、自分たちが暮らす飛驒市を子どもたちに考えてもらうきっかけになればという意見が検討委員会の総意ということにまとまった。

- 「純飛驒市民（20 歳以下、合併以降に生まれた飛驒市民）」に限定した記念ロゴコンテストの実施
- 市内の小学生・中高生・高校生に広く呼びかけ、できれば学校で取り組んでももらいたい
- 選定についてはプロへの依頼や、市民投票を行うことが望ましい

20 周年記念ハッシュタグを使用した、SNS での情報発信

ハッシュタグによる SNS での情報発信は、取り組みやすい PR 方法であり、市からの発信だけではなく、市民にも協力を呼びかけやすい方法である。これにより飛驒市の 20 周年の周知を広めるとともに、2 月 1 日にトレンドの 1 位を狙う企画を行うなど、多くの人に飛驒市の 20 周年記念を一緒に楽しんでもらうきっかけになるよう提案する。

ハッシュタグのワードに関しては公募案なども検討したが、実行委員会などを立ち上げ、その中で市民も気になるようなキーワードを決めてしまってもいいのではないかという意見が多かった。

検討委員会の中では、「#なぜ 2 月 1 日」、「#ひだしはたち」、「# 4 町 5 脚」「#やるからには全力で」「#ひだしか知らない」などの案が出された。

市民とゆかりの人でつなぐ 20 周年カウントダウン

前段の SNS での情報発信と併せ、写真とメッセージによるカウントダウンをホームページ、SNS などで実施してはとの意見が出された。

また、市民だけでなく、飛騨市ゆかりの著名人にも依頼しメッセージを寄せてもらうことが望ましい。記念イベントへの参加などよりは比較的、依頼のハードルが低く、多くの著名人にお祝いしてもらうきっかけになるのではないかと。

飛騨市キャラクターコンテストと、LINE スタンプの作成

飛騨市公式キャラクター作成の意見も出た。しかし、ゆるキャラはもう古いのではという声や、予算や今後の活用などを考えると、着ぐるみ製作などの大掛かりなキャラクター製作は、検討委員会ではあまり積極的な意見にはならなかった。

しかし、旧町村のキャラクターの復活・活用や、イラストとしての新キャラクター作成はあってもいいのではという声があり、イラストコンテストを行い、誰もが気軽に使用できる L I N E スタンプにしたいという意見にまとまった。

また、市の各部署でもイメージキャラクター制作を希望している部署があり、これと絡めて募集するのも市の事業を知ってもらうきっかけになるのではと考える。

〈募集方法案〉

- 「おはよう」、「了解」、「ありがとう」などのよく使われるキーワードと、参加希望の各部署のキーワード（例：「公共バスで行こう」「葉草摘んでます」「広葉樹推し」など）ごとにイラストを募集（20～40 キーワード）
- 募集イラストは、新キャラクター、もしくは旧町村キャラクターをリメイクしたもので、上記のキーワードを入れて応募
- キーワードごとに最優秀賞をスタンプ化する

補足：登録には 3 か月程度必要。無料の場合は 20 個、有料の場合は 40 個まで作成が可能。

有料スタンプの場合、収入があるので市以外での実施検討が必要。

〈20 周年記念事業〉

市民会議で出た意見をもとに、コアメンバー会議では「何のために、誰のために行うのか」という視点を持ち、実施の可能性や核となる事業としてふさわしいか（一部の人に寄った事業内容ではないか）などを議論した。

様々な意見が出る中で、具体的な事業を考える前に方向性を固める必要があるという声があり、その中で、

「今後 100 年残したい今の飛騨市（**今→未来**）」に目を向けてはという意見が出た一方、

「これまでの 20 年の歩み（**過去→今**）」も知りたい（特に若い世代や移住者から）という声が上がった。

そして、この二つをつなぐキーワードして、「**飛騨市を再認識する**」という方針で事業を検討するのがよいのではないかと意見にまとまった。

しかしながら、コア事業の絞り込みを検討する中で、20 周年のテーマ「みんなで創る、みんなで楽しむ、みんなで祝う」を考えると、コアメンバーのみで意見を絞ってしまうことは、せっかく出された多くの意見を埋もれさせてしまうのではないかと、また、あまり具体的な提案をすることは、実際に企画（事業）を運営するスタッフへの負担が大きいのではないかという意見も出た。

そこで当検討委員会では、市民から出された意見はそのまま提言として伝え、それらが一つでも多く実現可能となるよう、具体的な実施事業ではなく、実施に向けた方向性と手法を以下のとおり提言として提案することとした。

【方向性】

- 総合テーマに「みんなで創る、みんなで楽しむ、みんなで祝う」を掲げ、「今後 100 年残したい今の飛騨市（**今→未来**）」「これまでの 20 年の歩み（**過去→今**）」、「**飛騨市を再認識する**」という視点で 20 周年の記念事業を統括してはどうか。

【実施手法】

- 市民会議で出された多くの企画の中には、既に市や各種団体が実施している事業もあり、ぜひ、「20 周年」の冠をつけ、例年よりもグレードアップしての実施を検討いただきたい。
- スポーツ・文化などの各種団体からは具体的な事業案も多数出され、補助金などのサポートがあれば実施したいという意欲的な意見もあげられたことから、担当部署において各種団体等へのヒアリングを実施し、検討いただきたい。
- 既存のまちの元気応援事業や、各種商工・イベント系補助金などを活用し、市民や民間事業者発案の 20 周年事業が多数行われるような仕組みづくり（補助額、補助率の見直し、応募方法の簡易化、対象事業の拡大）を検討いただきたい。
- 事業実施にあたっては、内容により実行委員会を立ち上げるもの、市で直接実施するものなど様々な手法での検討をいただきたい。

〈スポーツ大会〉

・市民参加等

大会：大運動会、マラソン、ウォーキング、奥飛騨トレイルラン拡大、だいこんマラソン拡大、カミオカンデ駅伝、テラザウルスリレー（着ぐるみ）、雪の日に2キロ駅伝、ミニスキー大会、雪合戦、耐久スポーツ、（仮称）三寺国際駅伝でちようちんや松明持参し耐久や三蔵めぐりなどの要素いれて楽しく

教室：根尾君野球教室、スポーツ著名人（個人・チーム）招請しての教室

・誘致等

サッカーなどしこチーム、女子ソフトボール、プロ選手誘致等の合宿誘致や記念大会の開催、大会の誘致

〈フェスティバル等〉

冬フェス、マルシェ、キャンプフェス、音楽フェス、フィールドスタイル（遊びの祭典、海外のようなトマト投げ祭や牛追いイベント）、グルメフェスタ（ドライブイン数河で子どもが商品開発）、ひだフェス（4町ウォークラリーなど）

〈その他イベント〉

4町同時記念花火、スタンプラリー（飛騨市の魅力20箇所など）、バーチャル登山・山城、映画上映（「君の名は。」など縁のある映画）、消雪水で水遊び、安峰山からジップライン、ハンター教室、ギネスチャレンジ（飛騨牛食べまくり、地酒飲みまくり、手つなぎ人の鎖）、川床、歩行者天国、キノコ採りツアー、自然のアミューズメントパーク設置、水路アクティビティ（ラフティング、川下り、カヤック、水遊び、魚つかみ）、ロゲイニング、記念日にみんなで一斉にジャンプ、JR協力によるワイドビュー走行（市長運転）＋市民は沿道で旗振りお祝い＋動画撮影、メッセージを集め飛騨市の形にする、飛騨市防災訓練の拡充（NO電気デー＝火起こし、山菜や薬草などの自然食体験など）、自然保全活動・学びの場（薬草料理フェア、ミズバショウ配布による増殖＝人口湿原）、やんちゃ育成プログラム、ドローンで人文字撮影（20周年文字）、2月1日誕生日集合！（うち20歳は1日市長）、スプラトゥーンイベント（子どもたちによる）、著名人（神木君、梶田先生）トークイベント、カミオカンデ特別入抗、スキー場活用イベント、船津座で落語や歌舞伎、江馬館でコスプレ大会、子どもたちが考えた商品を販売、美味しいお米コンクールと展示、写真コンテスト、市内施設めぐり（魅力の再認識）、まつり会館へみんなでいく、4町交流イベント（学校交流も）、次の20年後に向けてのタイムカプセル、既存イベントの冠づけ、シャンパンファイト（神岡町の子どもたちからの提案）

〈記念グッズ等〉

マスコット（市公式キャラクター）、記念グッズ作成（Tシャツ、ロゴ、バッジ等、市民もSNS等活用し事前に発信＝本番を迎える）、記念商品開発（こうじ、提灯、ビール）、歴史絵本発行、みんなで考古学発掘大調査＋マップ作成、S62発行まちづくり本のその後作成、当時の振り返り記念誌発行、人物絵本作成、映像制作（お年寄り出演により飛騨市愛を伝えるCM、1年間を通してのドキュメンタリー、昔を未来に語るビデオ、各

町の花名所紹介動画、映画など）、LINE スタンプ作成、市民全員の手形作成、20 周年記念ソング作成＋吹奏楽部演奏&みんなで歌う（歌手の招請も）、写真で過去からの変化がわかるもの、公認 V チューバー

〈その他〉

市民の休日制定（子どもは休み）、施設無料日、バトンリレー（広報や同報無線、CATVなどで：笑っていいともみたいに紹介でインタビューをつなぐ）、写真リレー（一年間SNSでアップ）、無線でカウントダウン（放送部の子どもたちも巻き込み）

■さいごに

「飛騨市の 20 歳をお祝いしよう！」と声をかけたところ、市民会議はもちろん、検討委員会にも市内外から多くの方が参加してくださった（中には一度も飛騨市に来たことがない人の参加もあった）。

これは飛騨市の魅力が向上している何よりの証拠であり、会議内では飛騨市愛にあふれた意見が多数出された。

そこで感じたのは、『飛騨市ならできる』という目線の意見の多さで、「よそではできそうでないことも、飛騨市ならできる」、「飛騨市なら、よそより面白いことができる」、そんなわくわくした期待が会議から感じられた。また同時に、「やるからには全力で。普通の企画では満足しない」そんな飛騨人たちの気概が感じられた。

20 周年という節目を町全体で盛り上げ、楽しむためには、市民をはじめ、多くの人に知ってもらい、関わってもらうことが何より重要であるというのは検討委員会の総意である。新型コロナの影響などで少し落ち着いてしまった町の活動や人のつながりを再度盛り立てるためには最適なタイミングであり、「やっぱり飛騨市は素晴らしい！」という市民の気の醸成、シビックプライドの向上のためにも啓蒙活動から大いに力を入れていただきたい。

また、事業実施にあたっては、市民自らが積極的に実施できるよう、市のサポート体制（補助金の検討のほか、共に運営など）を検討いただき、より多くの市民が関わり、楽しめる 20 周年にしていきたい。

そのほか、記念式典に関しても、今まで同様の単純な表彰式というよりも、子どもたちや市民の関わりしろがあると良いのではと考える。そういった準備などを考えると、新年度の祭りが終わったところや観光シーズンの秋頃の開催が望ましいと思われる。

◆検討委員会一同 ※順不同

鮎飛 龍男	霜出 悦生	上葛 健介	谷村 美紅
蒲 めぐみ	平澤 百合	中畑 真由美	小林 淳子
山口 郁夫	坂下 誠知	岩垣 章子	